



Nagoya GRAMPUS



名古屋 グランパス ワイズメンズクラブ
NAGOYA YMCA5-2 KAMIMAEZU2 NAKAKU
NAGOYA 460 JAPAN

国際会長標語 Positive Commitment to Practical Action 「さあ！実行のとき」
アジア会長標語 Friendship & Peace Forever 「友情と平和を永遠に」
西日本区理事標語 「Positive Commitment to Practical Action 「さあ！実行のとき」」
中部部長標語 「今こそ地域へ伸びようYワイズ」
クラブ会長標語 「地域とともに」 広げようワイズの輪

1999年 5月号

＜今月の聖句＞

「人々からでもなく、人を通してでもなく、イエス・キリストと、キリストを死者の中から復活させた父である神とによって使徒とされたパウロ、ならびに、わたしと一緒にいる兄弟一同から、ガラテヤ地方の諸教会へ。」

ガラテヤの信徒への手紙 1章：1-2節

第一例会の欠席者は亀谷 龍生または三井に必ず連絡すること

1999年5月例会のご案内

◎第一例会

と き : 5月11日(火)
●19:00~21:00 時間厳守
ところ : 名古屋 YMCA
ドライバー : 坂口
アシスト : 吉田(正)
講師 : 常川里美

手話ステップアップ講座

聴覚障害の子供たちと共に今年度会長方針《聴覚障害の子供たちの活動に積極的に参加》を、より具体化する為、公私共にお世話になっております常川氏に2度目の手話講座をお願いすると共に、これからも常川氏とグランパスメンバーと末永くお付き合いができるような例会としたいと思います。

◎第二例会

と き : 5月25日(火)
●19:00~21:00 時間厳守

ところ : 名古屋 YMCA

◎たけのこ掘り

と き : 5月3日(月)

●10:00~

ところ : 三井宅

◎会員フェスティバル

と き : 5月29日(土)

●17:00~20:00 時間厳守

ところ : 名古屋 YMCA AVホール

4月例会報告

4月13日例会報告

今回はボランティアセンターの担当となられた加藤 渡さんに卓話をお願いしボランティアセンターの事を中心にお話をして頂きました。加藤さんにご自分でも話していたとおり野外の担当というイメージが強く、加藤さんにとっても机に向かって仕事をする事は大変つらい事であろうと想像がついてしまいます。

私は今回のボランティアセンターのお話を聞く機会を与えていただきとても新鮮に思えた事がたくさんありました。私はボランティアセンターができた時から委員を務めさせて頂き、微力ながらボランティアセンターの運営に意見を述べさせて頂いてまいりましたがボランティアセンターの仕事の内容・一覧表をあらためて見せられると私も知らないプログラムが数多くあり、その多さにはびっくりさせられました。卓話の中で加藤さんはボランティアセンターの現状と今後行っていかなければならない事について話をされていましたが3人のスタッフで充実した内容でボランティアセンターを運営して行く事はとうてい無理な話に聞こえてきました。これは委員としての私の悪あがきかもしれませんがとにかくボランティアセンターはYMCAの顔とも呼べるセクションであり、もっと充実した事業内容、プログラム内容であるべきだと思います。収入源はほとんどないのでから他の部門で収益をあげたもので運営されているのですから今の時期は顔といっても本

当にやりくりは大変だと想像がつかます。そんな中でチャリティーランのようにお金を集め、チャリソンラブキャンプのようなプログラムが運営され子供たちにとっても大変良いYMCAらしいプログラムが行われている事は大変喜ばしい話です。チャリティーランのような例は例外で、他はなかなか難しい台所事情だと思われまます。そこで私たち卓話を聞いて何ができるか考えてみました。女ならぬマンパワーにてサポートして行く体制を早く作らなければ成らないと思いました。職員でないと内容がまったくわからない。ではなくボランティア(例えばリタイヤした人たちでボランティアをやってみたと考えている人達など)の人達に集まってもらい補助的な仕事をしてもらったりワイズでもっとサポートして行く事です。口で言うのは簡単ですが、委員会の場でまた話し合ったりして、ひとりのワイズメンとして何ができるか皆で考えて行きたいと思ひます。

阿部 一雄

うまいお酒と野沢菜に感謝

毎年恒例の山田牧場ファミリースキーが3月27・28日に行われました。

今年は暖冬でこの時期雪が少ないのではと不安でしたが普段忙しく例会を不義理している私としてはメンバーとの交流を目的第一に参加しました。前泊組(26日よる出発)



の私は上前津YMCAで坂口兄、栄で丹羽さんをピックアップ。我が愛車スーパーパリアル4駆で一路ニュー笠岳ロッジへ向かいました。途中霧のため中央道飯田・駒ヶ根間通行止めのハプニング。157号線経由で(ロスタイムは一時間半)なんとか長野東ICに到着。

ところが三人ともここからロッジまでの道を知らないうえ霧で視界が悪くセンターラインをたよりに道に迷いながらUターンしながらなんとか午前2時近くロッジ到着。先着組の吉田(正)佐藤兄と一緒に皆様の無事の到着を願いつつ野沢菜で明日の打ち合わせ(本当は酒盛りが4時ごろまで続きました。

翌朝(27日)全員無事到着。小雨と霧のため視界の悪いコンディションの中皆良くゲレンデに出かけて行きました。私はポリシーとしてスポーツは良い天気のもとでおこなうものと考えておりますのでロッジで温泉とおいしいお酒と野沢菜を満喫しておりました。

夕方荒川夫妻と吉田、坂口、佐藤兄、丹羽さんと温泉ツアーへ出かけました。皆の話では混浴で若いギャルが一緒だったようですが小生不覚にもお湯の中で寝てしまいツアーの記憶が御座いません(神と女房に誓って)残念なことをしました。

最終日は朝から快晴、スキーは休憩なく半日みっちりすべり頂上からの北アルプスのすばらしいながめとおいしい空気を堪能することができました。お昼は恒例の「山田

牧場スキー場感謝ミカン拾いプレゼントゲーム大会」(勝手に私が命名)ミカンの中にナンバー記入の紙切れが入っていれば景品がいただけるのです。目の色を変えた狩人たちを横目に吉田(正)の後ろに立っていたらミカンが転がり込んできて私の手の中にスッポリ。中にNo2と書かれた紙切れが入っておりトレーナーを頂きました。昔の人は言いました「果報と果実は寝て待て」と…

そんなこんなのスキーツアーも無事終わりました。

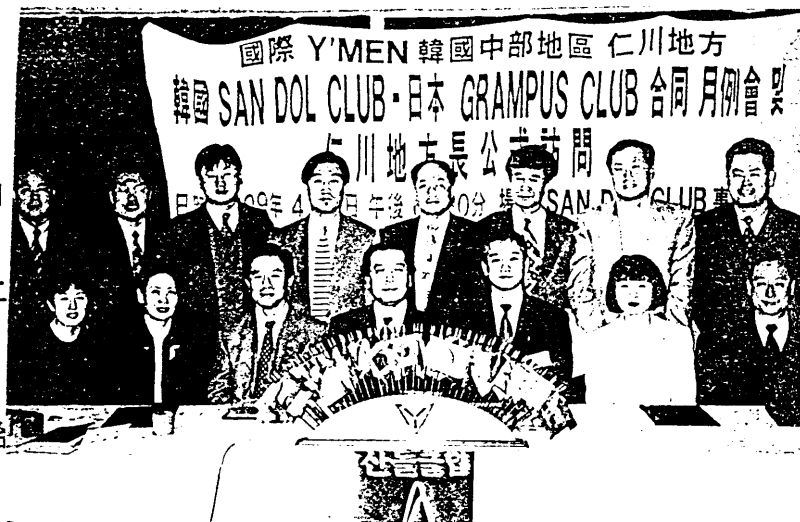
最後においしいトン汁をご馳走して下さったニュー笠岳に感謝しおいしいお酒と野沢菜に再会を約束して帰路につきました。

高田 士嗣

サンドルクラブ訪問を終えて

4月9・10・11の2泊3日、折りしも韓国出発の9日、この日は名古屋空港の国際線ターミナルが新しく拡張された建物となり、初日のオープ

ニングセレモニーに少しばかり参加させていただきました。「日本でお留守番の皆さん、テレビに我々が映っていませんか？」服部会長始め、三井、丹羽、井川のわずか4



名でしたが、インチョンサンドルクラブへ日本区大会の返礼という大儀を背負って訪問をしてきました。個人的に韓国へは初め

てのフライトなのでかなり不安と緊張とが入り混じり、まして日本区大会の時にはまったくとっていいほどサンドルクラブの

メンバーと顔を合わせる事がなく、まして言葉を掛ける暇も無かったので、3年ぶりの御対面でかなりプレッシャーがきつかったです。それでも韓国での入国

手続きをすませ、いざ御対面の時には、手厚い歓迎の中「アンニョ、ハシムニカ！」と名古屋弁交じりのごこちないアタセント

1999年5月1日

Nagoya GRAMPUS

で握手を交わしていくと、なにか懐かしい面々が思い出されて肩の力が次第に抜けて行くのを感じました。

初日はサンドルのクラブ訪問をしました。幸運なことにブラザークラブのメンバーの入会式に立ち会う事が出来、キャンドルライトの中、厳かにそして厳粛な入会式を経験しました。服部会長も入会式には一役かいたとても良かったと思います。お昼は市場での刺し身、夜は焼肉、朝からふぐちり！民族村で食べたビビンバ、食事がとても美味しくどれを取っても満足行くものばかりでした。今後サンドルクラブが日本に来た時、何をご馳走しようか今から頭が痛い思いです。とくに印象深かったことは、町のいたるところにキンモクセイが咲き乱れ、所によっては山一面キンモクセイ！「キンモクセイって国の花？」といたくなるほど満開でそれは見事に咲いていました。さらには木蓮の多さ、桜？、梅？、山ツツジ、と花が咲き乱れ、「まさに百花繚乱！！」。日本では桜、木蓮が散りツツジがこれからというのに。

日本の3月から6月までの花がいったんに咲いており、車で移動のたびに自分の目を楽しませていただきました。

とてもすばらしい、思いもよらぬ光景でした。ぜひこの景色は坂倉洋さんの奥さんのお母さまに見せてあげたい気持でした。(ちなみに4月28日から5月11日までの中区「ランの館」で花展をいたしております、お誘い合わせの上ぜひご覧ください。入場料¥700 井川の新しいイメージの作品です。)

今までサンドルクラブを訪問された方々はどう思われますか。自分は今回初めての訪問だけど、サンドルのメンバーと会う度に懐かしさや友情が深まっていく思いが致します。言葉はなかなか通じませんが、「そこは人と人。心と心。」の世界のように感じます。それはYMCAの旗印のもと、同じ信頼関係で成り立つ世界がここに存在するように思われます。最後に飛行場での最後の挨拶、出国ゲートで御互い手を握るサンドルクラブとグランパスクラブ、旧友のしばしの別れのように目頭が熱くなるような感動でした。回を重ねる毎に熱くなるブラザークラブでありたいと心より思います。また、是非とも皆さんも参加してください。昔少年時代味わったような友達と友達の素晴らしい感動を思い出す事が出来ると思います。

井川 幸吉

